

能登島中学校

44年間の歴史に幕

校歌

作詞 梶井幸代 作曲 中村外治

青き潮を 抱くしま
空に七色 虹のはし
ここふるさとの 能登島に
夢を育む 少年われら
広き世界に 羽ばたかん
高き望みに 勤しまん

かの万葉の 昔より
神さび立ちし 島山に
師弟の縁 結ばれし
愛と知恵との み教えを
忘れずつねに 学ばなん
弛まず身をば 鍛えなん

島のま中に そびえ立つ
三洲台の 学び舎に
三年の日々を 睦びつつ
迷い悩みし 友垣と
明日の日本を 担わなん
島の未来を 拓かなん

能登島中学校から巣立った2,824人 さまざまな想いが巡る中での閉校式



(右上) 閉校記念で製作したモニュメント
(右下) 参加した同窓生の皆さん
(左上) 校旗を返納する清水穂校長
(左下) あいさつをする桂撤男閉校記念事業実行委員長

最後の朝。早朝から降り続いた雨が止み、雨雲の隙間から差し込むまばゆい光が、能登島中学校の校舎を照らしていた。

続々と同窓生や関係者が能登島中学校に詰めかけた。閉校式の前、久しぶりに入る学び舎に、昔の思い出を思い浮かべながら校舎を巡る同窓生。教室の机や黒板などを見る同窓生は、閉校する学び舎を見て、どう感じたのだろうか。

閉校記念式典には、生徒や同窓生、来賓や先生など、約50人が参加。厳かな雰囲気で行われた。

開式から国歌斉唱が終わり、来賓のあいさつが続く。桂撤男閉校記念事業実行委員長からは「とうとう閉校する日が来ました。感慨深く感じるところです。思い起こせば、東島村、中乃島、西島村がありました。昭和30年2月に能登島町が誕生。合併から約10年後、町立の3中学校を統合しようと機運が高まり、能登島中学校が誕生し、新校舎を建設することになりました。国から離島支援として最大限に援助してもらい、学校の造成や整地には陸上自衛隊の支援を受け、大型ブルドーザーで造成したことを憶えています。この校舎も

責務を果たし、次は能登香島中学校で新たに始まります。次の学び舎も今まで以上に健全なる心身の鍛錬の場として能登島の子どもたちを送り上げたいと思います」と述べた。最後の校長となった清水穂校長は「44年の歴史に幕を閉じ、能登島から中学校の姿が消えることは寂しく、愛惜の念に堪えませぬ。この1年は生徒の自信と向上心を高めることを最重要目標として取り組んできました。合言葉は「二歩前進！能登島スピリット」です。生徒は今、さらなる前進を求め、能登島スピリットを胸に、飛び立とうとしています。次のステージでのさらなる飛躍を目指して活躍することを期待します」と沈痛の思いを述べ、これからの生徒たちにエールを送った。

続いて能登島のいろいろな人たちが携わって制作した閉校記念モニュメントの除幕が行われ、44年間の歴史が形となって現れた。

終わりに近づき、参加者全員で学び舎での最後の校歌を万感の思いで斉唱した。

そして、最後のときを迎えた。清水校長が校旗を三浦教育長に返納。44年の歴史に終止符が打たれた。